



大人のホテルライフを心ゆくまでご満喫ください。



日本平ホテル

ご予約・お問い合わせ TEL (054) 335-1131 〒424-0875 静岡市清水区馬走1500-2 www.ndhl.jp

徳川慶喜公と旧幕臣がつくった静岡の食文化



老舗蕎麦庵
安田屋本店
五代目
安田 裕さん

当店の明治維新後のエピソードが、そば漫画の大家・山本おさむさんが描く「そばもん外伝」(コミック乱ツインス2016年7月号に掲載)で紹介されました。

大政奉還により、新政府は徳川家を駿河七十万石に移封し、水戸で謹慎していた最後の將軍・慶喜公も駿府に居を移しました。これに伴って旧幕臣やその家族、使用人などが大挙して駿河に移住を開始し、その数は十万人にのぼりました。

旧幕臣の多くは無禄(給料なし)で、貧しい生活を余儀なくされました。やがて中條景昭は、山岡鉄舟、勝海舟、高橋泥舟らの協力を得て、旧幕臣が牧之原台地で茶畑の開墾を行い、自活の道を開くことを実現します。

「そばもん外伝」は、茶畑の開墾に向かうまでの駿府の街での旧幕臣たちの悩み、苦しみを描いています。その中に登場する安田屋では、薄口醤油・昆布などを使った関西風の味付けから、旧幕臣の口に合う江戸そばの味付けに変え、旧幕臣の心を癒したことが描かれています。お金のない旧幕臣たちは、山岡の依頼で、ツケで、そばを食べられるようにな

り、山岡、勝、高橋は、支払いの代わりに、書を残します。三舟の書を眺めた慶喜公が、安田屋の品書きを書く場面も紹介されています。

当店には、やたらと水を入れられない、三本棒で四角にする、汁は濃口醤油と本枯節を使うなど、江戸そばの昔ながらの技術が伝えられています。

おそらく、河内庵さん、岩久さん、岩井屋さんなど他の静岡のそば店でも、旧幕臣たちが口出しして、自分たちの好みの味に変えたのではないのでしょうか。そして、慶喜公と旧幕臣たちによる静岡の食文化の劇的な変化は、すし、うなぎ蒲焼にも及んでいるようです。



※この漫画は、安田屋本店で読むことができます。電話054-245-0981